

福岡大学病院 皮膚科 卒後臨床研修プログラム

I. 特徴

皮膚は単なる外界との隔壁ではなく、それ自体生命の保持に絶対不可欠の種々の機能を営む重要な臓器である。皮膚科固有の疾患以外にも紅斑症、紫斑病、血管炎、膠原病など内科疾患との関係が深いものもあり、中毒疹・薬疹のようにいずれの科においても直面するであろう疾患も含まれる。さらには、切開、排膿から皮膚腫瘍切除、植皮術に至るまでの外科的手技も必要とされる。本プログラムは、このような皮膚科全般にわたる幅広い皮膚科学の研修を行い、今後、他科へ進む者にとっても有意義なものになるよう作成されたものである。加えて美容皮膚科学に関してもその概要を理解できるよう考えられている。

II. 施設概要

皮膚科の病床数は12床。1日平均外来患者数は約85名。年間入院患者数は約170名。

III. 研修目標

1. 皮膚の構成成分とそれらの構造、機能、部位的差異を理解し、器官としての皮膚の重要性を理解する。
2. 発疹学を習得する。
3. 一般検査、皮膚科的検査法を習得する。
4. 基本的治療法を修得する。

VI. 研修内容

1. 皮膚科外来において外来診療の基礎を身に付ける。
2. 指導医のもと、外来処置および皮膚生検を実施する。
3. 病理所見を細かく自分で観察した上で病理診断を下す。
4. 入院患者の主治医となり、適切な治療法を選択し、その治療経過をミニレポートにまとめる。同時にインフォームドコンセントの実際について指導医のもとで実践し、カルテ記載の仕方を学び、カルテ開示の意義を理解する。
5. 基本的な皮膚外科の手技を習得する。
6. レーザー治療の実際の適応疾患および保険適応疾患を含め、必要な事項を説明し実施できる。
7. ケミカルピーリングのガイドライン等を習得し、レーザー治療も含め美容皮膚科領域の説明、方法、手技を習得する。

診断および治療の講義

以下の講義を皮膚科専門医により行う。

- (1) 皮膚アレルギー検査法
- (2) 自己免疫皮膚疾患検査法
- (3) 皮膚悪性腫瘍の画像診断法
- (4) 皮膚真菌検査法
- (5) 皮膚病理組織検査法・診断法
- (6) 一般皮膚疾患治療学
- (7) レーザー治療学
- (8) 美容皮膚科学

週間スケジュール

- | | | |
|----------------------|-----|-------------|
| (1) 部長回診 | 月曜日 | 8:20～9:00am |
| (2) 抄読会 週2回 | 火曜日 | 8:00～9:00am |
| | 木曜日 | 5:30～6:00pm |
| (3) 部長（又は病棟医長）回診 | 木曜日 | 3:30～4:00pm |
| (4) 臨床写真供覧 | 木曜日 | 3:20～5:00pm |
| (5) 症例検討会 | 木曜日 | 5:00～5:30pm |
| (6) CPC（病理組織カンファレンス） | 木曜日 | 6:00～7:00pm |

第4木曜日は病理専門医と合同

	AM		PM										
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
月		部長回診	外来										
			病棟										
火		抄読会	外来・手術										
			病棟										
水			外来				美容皮膚外来 光線外来						
			病棟										
木			外来					部長回診	臨床写真供覧	症例検討会	抄読会	CPC	
			病棟										
金			外来										
			病棟										

V. 当科の医療安全等に係る研修医教育

皮膚科カンファレンス時（毎週木曜日 16：00 から）

1. 医療安全 皮膚科における主な処置の実際と安全性
2. 手術、手術患者についての注意
3. 光線治療とその安全性
4. 真菌感染症とその処置 ～白癬、カンジダ
5. 生物製剤の投与（病棟、外来）とその副作用
6. 慢性創傷の消毒、洗浄、潰瘍処置について
7. 抗癌化学療法について
8. レーザー、ピーリングについて
9. 院内感染 ～処置時にみられるもの
10. 乾癬の診療 ～身体所見、PASI スコア

VI. 研修プログラム責任者

今福 信一

VII. 指導医一覧

今福 信一

古賀 文二

柴山 慶継

佐藤 絵美

清水 裕毅

筒井 啓太